



日本聖公会東日本教区 聖アンデレ教会

管理主教 フランシス 長谷川清純 牧師 司祭 ステパノ 卓志雄
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-6-18
電話 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698 電話礼拝 03-3431-0250
E-mail: st-andrew.tko@nssk.org HP: www.st-andrew-tokyo.com

聖霊降臨後第 11 主日(緑) 2026 年 8 月 9 日

礼拝案内

✠ 午前 7 時 30 分 聖餐式
(午前 7 時 25 分 礼拝奉仕者の祈りの集い)
司式: 司祭 卓志雄
説教: 主教 武藤謙一 (代読)
聖歌 14 359 542

✠ 午前 9 時 15 分
こどもとともにささげる礼拝
司式・お話: こども礼拝スタッフ
聖歌 14 359 542

✠ 午前 10 時 30 分 聖餐式
(午前 10 時 10 分 礼拝奉仕者祈りの集い)
司式: 主教 武藤謙一
入堂聖歌 14

参入 1 頁(162 頁)
清めの祈り 1 頁(162 頁)
キリエ 3 頁(163 頁)
大栄光の歌 4 頁(164 頁)
特祷 (特定 14)

み言葉

第一朗読 列王記上 19 章 9-18 節
詩編 第 85 編 8-13 節
第二朗読 ローマの信徒への手紙 10 章 5-15 節
福音書前歌 363
福音書 マタイによる福音書 14 章 22-33 節
説教: 主教 武藤謙一
「長崎から平和を考える」

午前 11 時 2 分 点鐘・黙祷
ニケヤ信経 9 頁(166 頁)
代祷 (週報 2 面) 12 頁(168 頁)
懺悔 13 頁(170 頁)

聖餐

平和の挨拶 15 頁(171 頁)
奉献聖歌 359
奉献
感謝聖別 (I) 16 頁(172 頁)
陪餐 24 頁(180 頁)
陪餐聖歌 485
感謝 28 頁(182 頁)
祝福 28 頁(183 頁)
派遣
退堂聖歌 542

✠ 午後 5 時 夕の礼拝
司式: 小笠原真智、村田信子
詩 19, 46 サム下 13:1-22 II コリ 11:21b-31
聖歌 452

礼拝参加にあたって

※礼拝は教会ホームページより動画配信されています。
(映像に映りたくない方は、その旨お伝えください。)
※手洗い場や消毒液をご活用ください。マスクの着用をおすすめしますが、状況・体調等に応じて各自ご判断ください。
※聖卓のろうそくの点灯中、礼拝前後(10 分程度)は黙想の時間です。聖堂内で静粛に、会話や挨拶もお控えください。
※礼拝中の席の移動はお控えください。平和の挨拶もそれぞれの席からいたします。
※献金・信施は、礼拝中にまわってくる献金袋に、または受付台付近の献金箱におささげください。
※聖餐式での陪餐の際、案内に従って中央通路を左右 2 列で聖卓に進みます。洗礼を受け、陪餐の許しのある方は、口または手のひらで分餐奉仕者からパン、またはぶどう酒に浸したパンを受け取ります。祝福を希望される方も同様に進みます。
※聖公会以外の教会で洗礼を受けて、聖餐に与っている方の陪餐(聖体拝領)を許可し歓迎します。
※陪餐後は、席に最も近い通路部分を通って席に戻ります。
※聖堂内での移動が難しい方、配信に映りたくない方は、分餐奉仕者がお席あるいは聖堂後方まで参りますので、遠慮なくお知らせください。
※体調や気分の不調のとき、また何かわからないことなどありましたら、遠慮なく受付案内の係までお声かけください。

本日の代祷 <敬称略>

一同着席する。

執事は次のように言う。司祭または会衆の代表者が言ってもよい。

執事 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世界のために祈りましょう

※ () 内の斜体は音読しなくてもよい。

<わたしたち教会 - 全公会のため>

代祷者 神よ、主の公会、ことに

[聖アンデレ教会

(ステパノ 卓志雄司祭、トマス日高馨輔執事)]

わたしたち教会の宣教・奉仕の働き、

教会に関わる諸団体

[東日本教区

(管理主教 フランシス 長谷川清純主教)]

目白聖公会、

聖職養成委員会、聖職候補生・同志願者

[東日本宣教協働区 (北海道・東北・東日本教区)]

志木聖母教会 (主の母聖マリヤ日 8 月 15 日)

[日本聖公会 (首座主教 ダビデ 上原榮正主教)]

長崎原爆の犠牲者と、すべての被爆者

[エルサレムおよび中東聖公会

(ホサム・ナウム大主教)]

ライネー ホーリーファミリー保育園

[全世界の聖公会]

アウェイル (南スーダン聖公会)

[日本キリスト教協議会 (NCC) の働き]

日本軍「慰安婦」メモリアル・デー

(8 月 14 日)

NCC 靖国神社問題委員会

を強めて、み子のみ業を行わせてください。

すべての聖職と信徒、ことに私たちの管理主教

フランシス

を導き、み名を呼ぶ者を主の真理と愛のうちに

一致させ日々主の栄光をこの世に現す者とならせてください

会衆 主よ、お聞きください

<平和と正義の実現のため>

代祷者 神よ、すべての国の人びと、ことに、

ウクライナや中東、またイランに対するアメリカと

イスラエルの攻撃によって混乱のただなかにある

地域の人びと、ことにそれらの指導的立場の人びとに知恵を与えて正義と平和の道に導いてください。互いに尊敬する心を与え、ともにすべての人の幸いを求めさせてください

会衆 主よ、お聞きください

<隣り人のため>

代祷者 神よ、わたしたちと家族、すべての友人と隣り人、ことに、

日々を共に暮らし、また離れて暮らすそれぞれの家族、友人、同僚、心にかけている人びと、聖アンデレ教会に連なるすべての人びと、ボーイスカウト東京港第 14 団、ガールスカウト東京都第 138 団、入信を希望している人びと、洗礼、堅信、初陪餐、結婚の準備をしている人びと、さまざまな理由によって教会から離れている人びと、この地域で生活し、働いている人びと、生命(いのち)の問題、困難な人びとを支える働きに関わる人びと、8 月の代祷・信施奉獻先となっている働き・団体
ことに、**在韓被爆者救援**(大韓聖公会ソウル教区オモニの会)

平和を実現するキリスト者ネットの働き(

平和を実現するキリスト者ネット(NCC内))、

在日外国人 인권問題(在日韓国人問題研

究所(RAIK)、外国人住民基本法の制定

を求めるキリスト者連絡会、外国人 인권基

本法の制定を求める全国キリスト教連絡

協議会)、

わかちあい募金(日本キリスト教協議会

(NCC))

に恵みを与え、ともに主を知り、主に仕え、互い

に愛することができるようにしてください

会衆 主よ、お聞きください

<困難な状況にある人のため>

代祷者 神よ、悩む人、悲しむ人、病气の人、貧しい人、その他災いの中にある人びと、ことに感染症の収束のため

[病床にある人・自宅療養中の人・別紙参照]

世界各地の震災の被災者、ことに熊本地震により

悲しみのただ中にある人びと、

世界各地の自然災害の被害のため困難な状況にある人びと、

本日・今週の予定

8月9日(日) 聖霊降臨後第11主日(特定14)

7時半 聖餐式

9時15分 こどもとともにささげる礼拝

10時半 聖餐式 武藤謙一主教

17時 夕の礼拝

・11時2分 長崎原爆の日 点鐘・黙祷

10日(月) 7時半礼拝 卓志雄司祭

エゼ 1:2-5, 24-28 詩 148:1-14, 12-13 マタ 17:22-27

11日(火) 7時半礼拝 高橋宏幸主教

エゼ 2:8-3:4 詩 119:65-72 マタ 18:1-5, 10, 12-14

12日(水) エゼ 9:1-7, 10:18-22 詩 113 マタ 18:15-20

13日(木) 7時半礼拝 高橋宏幸主教

エゼ 12:1-12 詩 78:58-64 マタ 18:21-19:1

14日(金) 7時半礼拝 卓志雄司祭

エゼ 16:1-15, 60-63 詩 118:14-18 マタ 19:3-12

15日(土) 主の母聖マリア日 7時半礼拝 卓志雄司祭

イザ 61:10-11 詩 67 ガラ 4:4-7 ルカ 1:46-55

・正午 敗戦・終戦記念日 点鐘・黙祷

16日(日) 聖霊降臨後第12主日(特定15)

7時半 聖餐式

9時15分 こどもとともにささげる礼拝

10時半 聖餐式 卓志雄司祭

イザ 56:1, 6-8 詩 67 ロマ 11:1-2a, 29-32 マタ 15:21-28

聖歌 11, 446, 333, 540, 417

17時 夕の礼拝 聖歌 304

詩 145 サム下 17:1-23 II コリ 13:1-11

・13時半 教会委員会

今週のメッセージ

今日は長崎原爆記念日です。日本聖公会の最初に建てられた教会である長崎聖三一教会では29名の方々が犠牲となりました。『長崎聖三一教会略史』には、犠牲になった方々について、以下のように記されています。

「後藤義一郎、夫人輝子は、爆心から1000メートルの距離にある自宅で即死。後藤老人はわが教会の柱石であり、教区の信徒代議員、多年常置委員を務めた。教会にとり、教区にとって大きな犠牲であった。同氏は長崎の産業界、特に水産界の第一人者であった。輝子夫人は教区婦人補助会の副会長であった。爆心から1000メートルの距離にある長崎刑務所の2名の婦人看守の一人として、泰民江は勤務中即死。長女フジ子は官舎で即死。次女正子は外出中で一人生き残った。爆心から500メートルの距離に江崎イネ姉の住宅があり、これを借家した宮本文甫一家8名中次女和子を除き7名が犠牲となった。文甫氏は、川南造船所に勤務して難を免れたのであるが、帰宅してみて、妻富士、五女明子2名即死。その後半月の間に4名の子供が次々に死亡。その看護と壕舎生活のため、8月25日から原子病の病症を発病。23年3月郷里の神代で死亡した。文甫氏は、原爆投下の8月9日以後、詳細な日記を記録、これにただ一人、大村師範に在学して生き残った次女和子が追加記録した貴重な原爆資料がある。

爆心から600メートルの距離にある長崎医科大学・生化学教室で研究中の伊賀氏は即死。彼は医大YMCA活動に熱心な学生であった。医大の基礎医学教室は、教授・助手・小使に至るまで一人の生存者もなかった。大学病院は、爆心に面した北側の部屋に在室した教授・助手・看護婦及び入院患者の全部が死亡した。南側に面する部屋にいた人は、殆ど助かった。コンクリートが放射線の防壁となったためである。大学全体で800余名が犠牲となった。角尾学長は、上京の帰路8月6日の広島を現地に見て、9日朝全職員を集め、患者は勿論全職員、学生の緊急退去を指示してその直後に原爆が投下され、学長もその犠牲となった。角尾学長は篤信なキリスト者で、YMCAの指導者であった。

爆心から800メートルの距離にある竹久保町に当教会の古い信徒、田川氏と伊達氏の2家族が住んでおられ、田川家は長男一人を残し5名全部犠牲となった。以上の記述の外に4名の方々が死亡されたのは確実であるが、原爆犠牲者の名簿がなく、8年を経た今、全力をつくして調査した結果、以上の事情が判明したのであるが、ついに4名の氏名と死亡状況を知り得なかった。多分徴用工として長崎に来て転入会した方々と思われる。当時全国から集められた徴用工は8万人と称せられた。」

原爆によって12月末までに7万4千人が犠牲になったと言われていますが、その中の29名の方々のことを知るだけでも、一人の命の尊さ、一人ひとりに家族があり、生活があり、夢や希望があったこと、それが一瞬にして奪われ、81年を経た今でも苦しんでおられる方がおられるのです。原爆犠牲者、被爆者に想いを寄せ、主の平和の実現のため、平和の器として歩む想いを新たにしたいものです。

主教 武藤謙一